



ホア ピン (平和)

HOA BINHレポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405,TsujiBLD,333,Yamabuki-cho,shinjuku-ku,Tokyo,Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp



会費/正会員:(個人)5,000円(団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱東京UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキュー)店(当座)0188872

手を携え、相互交流へ

昨年は、南部解放・統一40周年、ベトナム建国70周年でした。一昨年は宗主国フランスとのディエンビエンフーの戦いによる勝利60周年、ハノイ解放60周年でしたので、JVPFはベトナム現代史を学ぶ機会として活動をしてきました。

JVPFは発足にあたり友好のみでなく『平和』を掲げました。その活動の柱は枯葉剤爆弾被害者支援活動でした。『平和』をあえて掲げたのは「唯我独尊」でなく「共存」を強く意識した反戦へ通じる道だと思ったからでした。

枯葉剤爆弾被害者は今、第4世代も生まれています。生き証人の「私の体の中では戦争が終わっていない」という叫びは戦争被害の事実を、一過性のお詫びとして忘却させないことを突き付けています。

JVPFはIFCC国際友好文化センターが1996年から開始した枯葉剤爆弾被害者支援のためのチャリ

ンサートを共催しそのコンサートは昨年で20年を経、延べ371会場、来場者171,000人を数えました。また、枯葉剤爆弾被害者の「叫び」を追跡記録する活動も13年の及び、昨年枯葉剤爆弾被害者追跡記録DVD第3版『トアとトゥオン』を製作公開してきました。

戦争犯罪の生き証人の叫びを受けとめることは、被爆国として71周年を迎え、原発事故で放射能という制御不能化学物質の垂れ流しが終焉できない日本国民だからこそ問い続けるべきではないかと思ひます。



相互交流: 北部ハザン省のヴィスエン郡少数民族出身中学校で少数民族の踊りで歓迎を受ける。(2015・12・23/2015冬JVPF訪問団)

同時に、友好は「相互交流」でなければと思います。

今年も、皆様と手を携え、一層の活動発展に努めていきたいと思ひます。

2016年1月

理事長 大西繁治



相互交流: 宮古市の東日本大震災被災地にグエン・フー・ビン大使夫妻(当時)、来内宏幸・宮古市議員ら、アンサンブルメンバーの手で2011年10月14日、復興祈念植樹された「ネムノキ」の前で。2015年コンサートの合間を縫って(2015・10・18)

本号の内容

- ベトナムアンサンブルチャリティー公演報告
- タイビン省枯れ葉剤被害家庭慰問、ラムドン省奨学金授与、ハザン省調査等—2015冬JVPF友好訪問団報告
- 各地活動報告—福岡、長崎、鹿児島、広島、長野、埼玉など
- 短信

第九回総会のご案内

2016年5月28日(土)午後2時より後日、正式ご案内を致しますので、ご予約をお願いします。

20年目となった枯葉剤爆弾被害者支援／ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート ～生き証人の叫び“わたしの体の中では戦争が終わっていない”を受けとめて～

山形・酒田公演

この機会を、過去の人間の過ちを風化させない為に

野山が秋色に染まってきた 10 月 19 日、山形県酒田市「東北公益文科大学内・公益ホール」で「ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート in 庄内公演」が開催されました。

庄内地方は、日本海に面し農・水産業を中心とする第一次産業を主とする長閑な土地柄・人柄の地域で、2001 年の公演以来 3 度目の開催となりました。

9 月に多くの国民や憲法学者が反対したにもかかわらず、「戦争法案」が強行採決されました。自衛隊の国際協力の枠組みが大きく変わる出来事でした。一方で、ベトナム戦争が終結し 40 年を迎える節目の時、世界中では宗教や価値観の違いによる平和の願いに逆行する事件が日常的に起こっています。そういう時だからこそ、過去の出来事に学び、その国の人々との交流から異文化を受け入れ、多様な存在感を認める未来志向が求められていると感じています。



数多くの来場者が集うため、多くの団体と提携し実行委員会を立ち上げ、計 3 回の会議を経て本番へとつなげてきました。

来県したルオン団長以下、演奏家・舞踏家の皆さんのパフォーマンスには、来場したすべての人たちから称賛と感動の声があり、同時に開催された「枯葉剤被害のパネル展」や物販にも多くの人たちから協力と興味を示していただきました。また、来場者には平和活動に参加している方、ベトナム文化や諸外国の音楽に興味を持つ方、実習生として酒田市の縫製会社に勤めている多くのベトナムの方、総勢 219 人

(実行委員以外)の参加がありました。

この機会が日越友好をはじめとし、過去の人間の過ちを風化させず、「真の恒久平和」の実現に向けた活動の礎になることを祈念し、改めて協力をいただいた皆様に感謝します。

(実行委員会事務局)

山梨・小菅村丹波山村公演

ベトナム文化に酔いしれたひと時

10 月 21 日(水)、小菅村体育館で「チャリティーコンサート」を開催する機会を得ました。このコンサートは、日本ベトナム平和友好連絡会議の鎌田篤則氏と小菅村の古家静男村議が古くからの知り合いという間柄で話が進み、隣の丹波山村との共催で開催することができました。

小菅村と丹波山村は、多摩川の源流に位置する小村で、人口は両村合わせても 1,300 人余りですが、村の子供たちが異国の文化(歌や踊り、楽器)に触れることを第一の目的にしましたが、会場には両村の老若男女 143 名がお越しになり、初めて聴く民族楽器の音色や素晴らしい歌声、鮮やかな民族衣装に目を奪われました。そう腕のギター奏者グエン・テ・ビンさんのステージは感涙を誘っていました。また、音響や照明がステージを一段と華やかにして、村の体育館での開催とは思えない、感動を得ることができました。



村の観客からは、「ベトナム文化の素晴らしさを知る機会になった」「ステージが美しく、夢心地でとても良かった」「枯葉剤被害者のことなどでベ

2015 年秋のチャリティーコンサートは初めて国立ボーンセン歌舞団の協賛を得て、その選抜グループが来日。10 月 15 日に来日し東日本を中心に 12 回(宮城・登米市、盛岡市、山形・酒田市、新潟・長岡市、山梨・小菅村、愛知・常滑市、岐阜市、長野・岡谷市、神奈川・相模原市、埼玉・東松山市、東京・福島・会津若松市)のチャリティーコンサート、2 回の友情演奏会(小学校、保育園)、2 回の慰問行事参加(フクシマ原発被害者、広島被爆 70 年)を行い、11 月 3 日に離日。

来場者は約 3,000 人、チケット購入協賛者は 500 人ほどに上った。

紙面の都合で、一部掲載となりました。ご容赦下さい。

トナムが身近な国に感じた」などの感想が寄せられ、村民の皆さんは別れを惜しみながら会場を後にしました。

今回のコンサートを通じてベトナム文化に触れながら枯葉剤被害者支援が日本全国に広がることを念願し、私どもも支援していきたいと思っています。関係者の皆様、ありがとうございました。(小菅村・佐藤英敏教育長)

愛知・中部国際空港セントレア公演

時間との勝負だったが 500 名の大盛況

2015 年 10 月 23 日(金)、ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートが開催された。このコンサートの開催については 8 月に急ぎょ場所が決まった経緯があり、開催決定からコンサート当日まで、とにかく時間との戦いでした。

また、開催にあたっては葵城内会の全面的な支援のもと、地元有志が主導して開催にこぎつけたが、最後の最後まで葵城内会に支えられ、無事開催できたことをまず初めに感謝いたします。

実行委員会の心配事はなんといっても動員数でありました。時間が無く十分な公報が出来ずに当日を迎えたため、最後の最後まで心配をしておりましたが、実際始まってみると会場の席数を大幅にオーバーし立見のお客まで現れる盛況ぶりでした。(動員数は約 500 名程度)

演奏がはじまると、華やかな衣装をまとった女性の歌と踊りで、会場全体が大きく盛り上がりました。また普段みることのない珍しい楽器の美しい音色に、会場全体の気持ちが一つになっ

た思いがしました。

公演では片腕であるギター奏者が、反戦の思いを込めて演奏を立派にこなしている姿もありました。聞けば、彼自身が孤児や障害を持つ子どものために学校を設立するなど、精力的に活動しているとのこと。このチャリティーコンサートの意義の深さを感じることができました。またこのベトナム戦争は、同じ地球上でわずか数十年前に実際に起きていたという事実をしっかりと認識し、ベトナムで起きた悲劇を我々人類が決して繰り返してはならない暗い歴史でもあります。この事実を次世代に伝えていかなければならないということを強く感じました。

平和の国日本に生まれ、戦争を意識することがないこの時代に、平和を守り、維持していくことの大変さを再認識させて頂きました。今後ともベトナムチャリティーコンサートを支援し続けて行きたいと考えています。(中部国際空港セントレア公演実行委員長 齋田大五朗)

岐阜公演

ベトナム戦争を忘れない！
平和の大切さを



10月24日、岐阜市の「じゅうろくプラザ」2階ホールで開催されました。岐阜公演は2008年に引き続き2回目の公演で、前回と同様に「岐阜県実行委員会」を立ち上げ、幅広い協賛・後援を呼びかけることにしました。岐阜県労働者福祉協議会、連合岐阜、フォーラム岐阜、連合ぎふ地域協議会、岐阜地区労働組合協議会など労働団体の協賛と岐阜県・岐阜市の後援を受けて、準備を進めてきました。また、岐阜県内のベトナム進出企業への協賛の呼びかけも行ってきました。

入場者数は予定人数より少なかったですが、来場者の評価は高く、多くの人々が感銘を受けられ、もっと多くの人に来場してもらえたら良かったと言

う声が多く寄せられました。ベトナムの民族楽器で奏でられる素朴で美しいメロディーに多くの人が感激し、なかには涙を流している人も何人か見えました。特に今回の公演は、岐阜市内の中小企業で働いているベトナム研修生に対して呼びかけを行い30数名に来場してもらい、来場者・関係者からは感謝の声が寄せられました。

今回のチャリティーコンサート公演についてフォーラム岐阜は、ベトナム文化に親しんでもらうとともに、ベトナム戦争を風化させないこと、戦争で枯葉剤の被害を受け障害を負った人々への支援、枯葉剤による障害が今だに続いている現実、日本での原爆投下による原爆症被害と同じであるとして、反戦・平和運動として取り組みを進めてきました。

今回の公演を通じて、不十分な点を反省して、これからも反戦・平和の大切さを訴え続けていくことを改めて再確認することができました。(実行委員会事務局)

福島・会津若松公演

公演後の夕食交流会で特別ミニ演奏会も

10月30日、会津若松市の「市民文化センター」で若松としては3回目の公演を行いました。10年前は私共の会社と社民党会津若松総支部連合が実行委員会を作り公演(480名)、5年前には私共の会社(有)夢と共生の21グループ(介護事業)が会社設立10周年を記念して、利用者に感謝する招待公演を会津大学公演ホールで実行しました(500名)。

今回も会社設立15周年を記念した公演で、しかも日本での公演最終日とあってメンバーの皆さんは張り切っていました。

ベトナムは54もの多くの民族が織りなす歴史で綴られ、歌や踊りが民族の間に伝承されてきました。今回はそうした民族楽器の音色が十分に披露されました。

今回のコンサートを聞きつけたベトナム関係者や、ある温泉で働く50代の女性は初めて見るベトナムの様々な楽器やその音色に驚き、

「良かった良かった」の連続で帰りました。

民族歌舞グループのほかには今回はベトナム音楽の作曲家「チンコンソン」の音楽を隻腕で奏でるグエン・テ・ビンも参加してくれました。日本で歌われている「坊や大きくならないで」等の曲は「チンコンソン」の作で、今もベトナムで多くが歌われ、演奏されています。グエン・テ・ビンさんは3歳の時に父親を、7歳の時に母親を亡くし、加えて自分自身が8歳の時に事故で右腕を失うという悲劇の連続の中で、努力を重ねながらの今回の公演でした。そうした彼の演奏する姿と素晴らしいメロディーを耳にし、彼の生き様を思い、観客の多くが涙しながら胸をうたれた一時でもありました。

今、若松市には4年前の東日本大震災と原発事故で故郷を追われた方々3000名以上が仮設住宅で暮らしています。そうした方々も支援する意味でご招待(200名)申し上げたのですが、当日雨天なども重なりおいでになれず残念な部分もありました。

午後7時からはお待ちかねの第二部として役員・主任に加わり、会社の宿泊勤務の方々の労を兼ねながら招待して、ベトナムのメンバーの皆さんを含め総勢約50名で夕食晩餐会を行いました。夕食会では、ベトナムのメンバーと握手したり、名刺交換をする人も多く、あちらこちらで「乾杯乾杯」の声が聞かれ、にぎやかな交流会となりました。

夕食会ではアンサンブルメンバーの方々が何組にも分かれ特別ミニ公演を披露してくれました。特にシ・ニュー・ゴック・マイさんのアカペラ独唱などは食堂で働く職員の皆さんもびっくり驚きの連続でした。会社のメンバーをお迎えしての歌を要請され、「赤トンボ」をかしこまつの合唱となりました。

アンサンブルの皆さんからお土産を頂いたお返しにお土産を贈り、今年9月頃に10名位のベトナム訪問団を送る約束をし、全員で記念写真をパチリで、また会うことを願って散会しました。(有：夢と共生の21グループ代表/大隅保光)



2015 冬 JVPF 訪問団報告

南部解放・統一 40 年、建国 70 年の年、最後の訪問団を 12 月 20 日から 25 日実施。2015 年は 4 月 30 日のサイゴン解放記念日を祝して訪問団を実施したのに続き 2 回目の訪問団。今回は鹿児島 JVPF が実施しているラオドン省少数民族高校での奨学金授与、タイビン省で枯葉剤被害者リハビリ施設慰問、枯葉剤爆弾被害者追跡記録 DVD『トアとトゥオン』記録の枯葉剤被害者 2 世：トアとトゥオンへ記録 DVD を届けること、そして北部の少数民族の省「ハザン省」の少数民族学校視察（直前になりハザン省枯葉剤被害者協会、薬草栽培農場の訪問も）の行程でした。また、ハノイでは越日友好協会のビン副会長（元・駐日ベトナム大使）と今後の交流活動について意見交換しました。



ラオドン省少数民族高校生奨学金授与式

書道パフォーマンスが大好評

山下順子

JVPF 鹿児島支部は、ダラット少数民族高校生の就学支援を始めて 3 年目を迎えました。

今回は、新 1 年生 10 名を加えて 2 年生 10 名、3 年生 11 名への奨学金授与のため 12 月 21 日に訪問しました。当日はあいにく試験日であり、当該生徒と校長、副校長（3 名）、労働傷兵社会省から 1 名の参加の授与式でした。

初めに副校長の挨拶があり、2 年生二人が健康上の問題と家の農業を手伝うという理由で退学したことが報告されました。初めて聞くことで、準備した二名分の奨学金が宙に浮くことになりました。奨学生の動向を事前に周知していなかったことで、サポーターの誠意を無にしてしまった申し訳なさ、退学した二人の学生の心配、落胆が大きかったです。

奨学金は 1 年生から順に一人ひとりに手渡しました。1 年生は緊張した面持ちで受け取り、2 年生・3 年生は「ありがとう」「ありがとうございました」と日本語で感謝の気持ちを表し、表情ものびやかになっており、成長の足跡が見られ大変心が弾みました。

今回は試験中で時間的に奨学生一人ひとりとの交流が出来ませんでしたが、3 年生だけは卒業後の進路を聞くことが出来ました。医学、医薬関係希望 7

名、農林関係 3 名、経済関係 1 名と全員大学進学を目指していました。

私の前回の奨学生であった男性は小学校教師を目指していましたが、まだ就職できずに家の農業に従事している現実を見ると、この生徒たちの未来にも大きな障壁があることは想像に難くありません。夢、希望実現のため、あきらめることなく自らの道を切り開く

努力をして欲しいと切に願っています。

副校長先生が「残念ながら二名の退学者が

出たが、残った皆さんはもっと勉強し成長して欲しい。日本の支援者に手紙を書いてください」と生徒を励ました。

新しい試みとして、同行された新潟の角山さんに書道のパフォーマンスをしてもらいました。生徒も先生方も書道を見るのは初めてのようで興味深く見学し、希望の文字をプレゼントして大変喜ばれました。多くは、徳、学、孝、忍、福、理、成功、努力、利などの希望でした。学校から今後文化交流を進めて欲しいとの希望が出されました。

今回は、生徒の成長が確認できたことや相互理解も少しは深まりました。また、この支援活動をさらに発展、充実させるために支援者の確保、学校との定期的な連携の強化という課題も残されていることを実感した授与式でした。

ハザン省、タイビン省で枯葉剤被害者状況視察・慰問
今も続く苦悩の日々――被害者たち

角山優子

ハザン省枯葉剤爆弾被害者協会(VAVA)訪問

12月22日ハザン省ハザン市へ移動。ハザン省枯葉剤爆弾被害者協会を訪問しました。

協会側はゲンモンゴック副会長さんに出迎えていただいた。

鎌田 JVPF 副理事長が「私たちは枯葉剤の被害者への支援と少数民族の学校、学生への支援の 2 つの活動をしています。ハザン省での被害者の実態を調査に来ました。」と挨拶しました。

副会長からは「この協会のメンバーは 8862 人、そのうち被害者が約 3600 人であとはボランティアです。ハザンはアメリカとの戦争の時 1 万人以上が兵士として南部戦線に参加した。枯葉剤爆弾被害者は今ハザンでは約 4000 人。そのうち 2434 人が直接戦争に参加した人。このうちの 836 人だけが政府から今援助を受けている。残りの 4416 人は政府支援がない。第一世代の援助がもらえない人には VAVA の基金から支援しているが金額が少ない。子ども（第二世代）は 1416 人の被害者で 215 人が支援有り、1171 人が支援無し。孫（第三世代）は 366 人。この第三世代は政府の援助対象になっていない。症状は身体麻痺、神経障害などが多い。第三世代は国からの支援は一切出ない。障害者年金の支給対象になる。

多い障害症状は突然の発病とか困難な病気での急死が見られる。患者は高齢化していてどんどん亡くなっている。特に 1974 年から 1975 年に戦争に参加した人が健康を害している。困難な病気で働けないため生活が苦しい。私たちの希望は実際に患者を訪ねて頂きたいこと。そしてその人たちは何を必要としているか、聞いて欲しい。省内には 195 の村があり、そのうち 145 の村に被害者がいる。この協会では 6 人



のスタッフが、枯葉剤の影響の周知、会員を勧誘、援助の要請のPR、住民への医療援助などの活動をしているが、政府は金が無いし協会も自力では何も出来ない。学校に行けない子どもへの援助も足りない。患者のリハビリ施設は場所やスタッフが用意できなくて、未設置だ。」と現状の紹介がありました。鎌田さんから「今回は被害者の家庭訪問が出来るようにしたい。」との約束に「是非。私たちも同行します。」と固い握手が交わされました。

タイビン省リハビリ施設訪問



12月24日、タイビン省のリハビリ施設を訪問しました。ここは JVPF がチャリティコンサート益金約 1000 万円で 2004 年に開所したところ。

この施設には5月にも訪問していますが、今回は正月前なので入所者にTシャツのプレゼントを持参しての訪問。

タイビン省労働局副局長、レイ所長、チョン副所長が出迎えてくださった。

この施設はタイビン省から援助をもらい、25人くらいが入っています。

挨拶の交換のあと子どもたちが待っている会場に移動して、日本から持参のTシャツをひとりひとりに贈りました。

交流では歌のうまい子が先生に促されてちょっと恥ずかしそうに立ち上がり、2曲歌ってくれた。その子は眼が全く見えないということを帰りのバスの中で聞いたが、澄んだ美しい声でした。

トアとトゥオンの家庭を慰問

12月24日、タイビン省被害者の家庭を2軒訪問しました。日本人向けに枯葉剤の被害状況 PR のための DVD を作成して完成したので、協力してくれたトアさんとトゥオンさん（いずれも女性）にその DVD を届け、また今の状況をうかがいました。

トアさん（31 歳）のお話し



——去年お会いした時は失業中でしたが、今は友人（オーナー）のやっている洋服店で働いています。とりあえず毎月収入（日本円で

5300 円位）はありますが、政府からは援助がないので両親が年をとったら心配です。

重い仕事は出来ませんが普通の人と同じ暮らしは出来ます。

以前アメリカで手術して、今は治療をしていません。皮膚全体が弱く、盛り上がりたり、夏と冬はかゆみがひどく、掻くと黒い皮膚がむけてくるのです。食事は少ししか食べませんー

でも最後にトアさんは「私よりもっと困っている人がいます」と訴えました。その優しさはどこからくるのか。トアさんはホーチミン市の戦争犯罪証跡館にも写真展示されています。

トゥオンさん（34 歳）のお話し



前列左から4人目

——ほとんどすべて家の仕事をしています。包丁は脇の下にはさんで、ナイフは足で使います。字も書けるし、パソコンも使えます。父は病気をして、少し良くなったが年をとっているので心配ですー

自分のため政府から毎月（日本円で約 6500 円位）もらっていますが、少ないと思います。でも本当はお金をもらうよりも仕事について収入を得たいのです。

トゥオンさんの父親は、北で従軍し枯葉剤を浴びました。そのため足、神経の病気や肺ガンなどを発症しました。母親は教師で枯葉剤の影響を直接受けていません。トゥオンさんが生まれる

前に2回流産し、トゥオンさん生まれて喜んだが、手の指が1本しかない奇形が枯葉剤の影響であることを当時は知らなかったそうです。

一緒に訪問したタイビン省被害者協会の担当者からトゥオンさんに「今2年後の完成を目指して被害者が仕事が出来する施設を作るプロジェクトが始まっています。完成したらトゥオンさんもそこで一緒に仕事しましょう」と希望のもて話されました。

ハザン省の少数民族中学校視察訪問

家族の月収 40 万ドン（約 2 千円）

川路 孝

2015 年 12 月 23 日、ハザン省少数民族出身者中学校を訪問しました。ハザン省は、ベトナム東北部、中国雲南省と国境を接するベトナム最後の秘境と言われる所で、19の民族からなる人口76万人の省です。

1市10郡で構成され、中心部のハザン市は、ハノイから北に約300キロのところにあります。

民族の構成としては、モン族 31%、タイ族 26%、ザオ族 15%、全国で 86%を占めるキン族は 12%とここでは少数民族でした。また、バテン族という2000人のハザン省にしかない民族もいるということでした。

また、世界遺産となった石灰岩の高原の公園や国家遺産に認定されている少数民族が作った棚田などがあります。ハザン省外務局副局長からは、各種の日本の技術を学びたいということや、日本の都市との友好関係も作りたいとの話もありました。

今回訪ねた少数民族出身者の中学校はハザン市から20キロハノイ側のハザン省ヴィスエン郡に1か所だけ作られているといひます。生徒250人（全寮制）、先生18人（男4人、女14人で、全員キン族の人）を入れてスタッフ31人の学校です。学生の民族的構成は、モン族・タイ族・ザオ族が多いが、ハザンにしかないボーイ族3人、



プベオ族 2 人など少数民族の子供がいるということでした。

生徒の3分の2が女性、3分の1が男性で、郡内から、能力や性格、貧困の状況も勘案されての「選抜」で入学しているということです。

なお、高校も1か所あるということですが、生徒は男女半々ということですが、

学校の目的として、将来この村と郡のスタッフになってもらいたいということがあるということでした。

なお、ここの中学生の高校進学率は98%で、ほとんど進学しているとのこと。

入学している生徒には、政府から奨学金があるということですが、親はほとんどが農業で、家族での収入は月40万ドン(≒2,000円程度)ということです。

学校での授業はベトナム語で行われていますが、各民族の文化を守るために、各民族服を着る日を設定したり、各民族の歌や踊りの授業もあり、その

コンテストもあるということです。

最後に、この中学校に外国人が訪れたのは、私たちが初めてだったそうで、歓迎を受けるとともに、いろいろな説明や学校内の教室や宿舍など案内していただきました。

設備が古かったり、テレビやパソコンが不足するなど課題も多く抱えているとのことでした。どんな支援ができるか、今後検討必要と思いました。

(JVPPF 鹿児島支部)

各地の活動報告

鹿児島

平和と文化交流の集い
皆で輪になり「鹿児島おはら節」

鹿児島 JVPPF 支部

ベトナム南北統一 40 周年記念事業として JVPPF 鹿児島支部と KVA (鹿児島ベトナム人会) は、昨年 10 月 18 日「平和と文化交流の集い」を開催し



ました。KVA からは鹿児島大の留学生、日本語学校生、技術実習生、就労している人など 40 名、日本 (鹿児島) からは 25 名で都合 65 名が参加。

冒頭に川路孝さんが実行委員会を代表して、JVPPF がタイピン省に枯葉剤のリハビリ施設を作り運営していること、鹿児島でのラムドン省のダラットにある少数民族高校生に奨学金支援活動事業を紹介し、国や民族を超えて友好連帯の輪を広げようと訴えました。

鹿児島大学名誉教授の荒川譲先生から「私の戦争体験と平和」と題する講演が行われ、留学生のハオさんからスライドによるベトナムの現状が紹介され、意見交換を行いました。技術実習生からは、苦労あるが帰国後、日系企業で働きたいと希望も話されました。充実した交流で時間が足りませんでした。文化交流は、ベトナムの仲間の伝

統の踊りで始まり、日本からは舞踊が披露され、参加者全員が輪になって「鹿児島おはら節」を踊り、皆で「ベトナム国歌」を歌い「会」を閉めました。

(JVPPF 鹿児島支部奨学金ニュース 5 号より)

福岡

長崎被爆 70 周年
ハノイ大で写真展開催

福岡 JVPPF 支部

昨年 8 月 20 日(木)～21 日(金)に JVPPF 福岡の交流事業として、福岡県退職教職員互助会福岡支部から助成金を頂き「長崎原爆被爆 70 周年写真展」を開催しました。

この写真展は、広島・長崎の原爆投下から 70 年にあたる 2015 年を核兵器と生物化学兵器廃絶の出発の年にしようとの立場から、ベトナム戦争時の枯葉剤被害を含め、35 点の長崎原爆写真(山口裕之さん編集)を展示し、ハノイ大学国際センター、日本語学部と共同で開催しました。

写真展には、延べ 400 名以上の学



生や教師、留学生が来場しました。2 日目の午前は、写真展会場で、現在ハノイの日本語学校で教えている山口千世代さんが平和授業として「長崎原爆被害報告」を行いました。報告会には、日本語学部の学生を中心に 40 名が参

加してくれました。

会場設営や受付に、福岡大学からの短期研修学生や日本語学部のボランティア学生が手伝ってくれ、交流の輪が広がりました。

8 月 24 日(月)には、ホーチミン市に移動し、ツーズー病院平和村とゴーバップーを訪問して、一昨年のコンサートの支援金の残りを渡しました。

平和村では、タン前所長、チャン新所長とドクさんの 3 人と会い、いろいろと交流をしました。(事務局)

長崎

長崎県中村知事同行ベトナム訪問団 2015 夏
平和のシンボル被爆楠を植樹

NPO 法人長崎ベトナム友好協会

2015 年夏、長崎県知事訪問団がベトナムへ派遣されることとなり、この訪問に合わせて私たち NPO 法人長崎ベトナム友好協会は 8/27(木)～8/31(日)産業振興を図るため、当協会メンバー 17 名を含む総勢 102 名でベトナムを訪問しました。

27 日(木)、ホーチミンに到着し、イオンモールタンフォーセラドンと戦争証跡博物館を視察しました。

この日のうちにダナンへ移動し、28 日(金)午前中はダナン市内を視察。また、長崎外国語大学の栗屋曠理事長とダナン外国語大学日本語学科を訪問し意見交換等を行い、その後、ダナン市共産党本部副書記長とダナン市長を表敬訪問しました。

午後は、ダナン市主催昼食会にご招待をいただき参加。その後、ダナン投資セミナーへ参加し、夕方にはダナン越日文化交流フェスティバルへ参加をしました。フェスティバルでは、日越友好鏡開きが行われ、伝統楽器演奏や

合気道、剣道の実演や、長崎からは長崎を紹介するブースや JA による長崎和牛の試食等が行われ、大変人気なコーナーになっていました。

29日(土)五行山の麓にある、五行山観音寺に隣接する土地に建設予定の日越友好・歴史文化交流センターの入口となる場所に、中村長崎県知事一行により、原爆で枯れたようになった山王神社の大楠(おおくす)の種子から生えてきた苗木を持参し、植樹をしました。

被爆楠は日本、特に長崎では、復興



と平和のシンボルとなっています。ベトナム戦争で枯葉剤の被害により、死の森と化したベトナムの森が今ではベトナム人民の手により見事に甦り、復興をなし遂げたベトナムの象徴となることができるよう、日本人も想いを重ねて感じることができることを想い、植樹をしました。

その後、クアンナム省知事を表敬訪問し、長崎県とクアンナム省の姉妹県協定の調印が行われました。

今回も、ベトナムと長崎の更なる交流の発展に繋がる大変有意義な訪問となりました。(事務局)

広島 異なる国、文化をつなぐ心の会話

広島ベトナム平和友好協会

この度、ベトナム訪問団(実施:2015年10月19日〜)に同行させていただき今まで知ることのなかった沢山の経験をさせていただきました。北はハノイからホーチミンまで、中でも一番強く心を打たれたのが、クアンチ省の少数民族高校への奨学金授与式に出席したことでした。

ベトナム中部は都市部と比べて非常に貧しく、経済的に学校に行くことができない子どもが沢山います。そんな子どもたちが学校に通うための奨学金を届けに行きました。招かれたのは学生たち、先生方が集まる体育館。沢山



の拍手と歓声を浴びる中で、HVPF がこれまでに行ってきた活動がいかに尊いのか、またどれだけ多くの希望を与えているのかということが伝わってきました。

学生たちはみんな元気で明るく、国や文化は異なるけれど、まるで心で会話が出来ているかのように、私たちと触れ合い、短い間ながら、暖かな国際交流が出来たのではと思います。

東広島には沢山の外国人が暮らしており、ベトナム人も多くいます。言葉は違えど、笑顔でつながることの出来る可能性の大きさを、現地ベトナムで改めて学びました。

一方で今なお続く枯葉剤被害の問題。100万人を超す被害者が苦しみ、様々な障害を発生させて続いています。

今、私に出来ることは、この度体験した喜びや悲しみを、一人でも多くの人に伝えることだと思います。素晴らしい機会を頂きありがとうございました。(山田 学)

長野 大使を招き「経済セミナー」

長野県ベトナム交流協会

昨年11月2日(月)〜4日(水)、長野県をベトナム大使が訪問されました。長野県庁、長野県経済4団体、JA



長野中央会、信州大学工学部、八十二銀行、信濃毎日新聞社、連合長野を表敬訪問し、熱烈な歓迎を受けました。

特に、長野県知事を表敬訪問した際、ベトナム大使から大使館公邸へアメリカ大統領も食したフォー(大使専属のシェフが作った)を食べに来てくださ

いとの招待に対し、知事は大使館に是非行きたいと前向きに約束しました。

長野県ベトナム交流協会は、できるだけ早い時期にベトナムへ経済界(工業・観光・商業・農業・医療・教育・文化を含む幅広い各界からのミッション派遣を考えています。これは当交流協会が企画した「2014年 Japan Festival in Vietnam(ホーチミン市での10万人の集い)」へ参加したことがきっかけになりました。長野県ベトナム交流協会創立10周年記念行事として行った企画に、経済4団体、JA長野中央会、長野県勤労者福祉協議会等が参加したことに始まりました。

このベトナムでの Japan Festival in Vietnam の報告とベトナム進出企業、JETRO長野、JICA、信州大学の報告を含め長野県庁での「ベトナム展」を開催し、今回のベトナム大使を迎えての「ベトナム経済セミナー」開催へとつながったものです。

枯葉剤禍の子どもたちを救う「ベトナム・アンサンブル・コンサート」の開催に始まり、協会の設立、第8次訪問団までの交流、第7回ベトナム経済セミナー、国際フェスティバルの参加、留学生・実習生の支援、病院や警察等への通訳派遣とベトナム交流協会の活動の幅が広がってきたことは10年間の成果であり、蓄積の集大成です。今後とも、民間ベースでベトナムとの交流について幅広く、持続的に邁進していきたいと切望しています。(専務理事: 榎野金治郎)

埼玉 クアンナム省で『仁愛の家』20軒

埼玉 JVPP

クアンナム省の「仁愛の家」は今年で20軒になります。昨年の7月28日から8月1日の「ベトナム訪問団」には川越市の市議会議員2名が参加し、各地で実りある交流をしました。

14軒の「仁愛の家」の家族との交流会も楽しく終わりました。その時のクアンナム省友好委員会連合のシン副クアンナム省友好委員会連合のシン副会長の言葉が印象的でした。

「仁愛の家は確かに家には違いありませんが、私達の心の中にも仁愛の家があるのです。仁愛の家の建設は、お金も問題だけではなく、心の問題なのです。日本人の人々の心が仁愛



2人の子供は第4世代

の家を造っているのです。そして、仁

愛の家を造ることによって被害者同士や地域の結びつきが強まり、新しい家ができることによって、被害者が社会に関心をもつようになりました」と述べ、被害者たちの生活を懸命に守っている地域のVAVA（被害者協会）や村の役員の人達の活動もよく分かり、私達が逆に感激しました。

しかし、ダイオキシンの被害は確実

に「第4世代」まで来ていることを昨年12月の訪問で確認してきました。実に深刻です。この問題にも具体的に取り組む必要があると思っています。

※「仁愛の家」とは枯葉剤被害の困窮家庭に支援されている家のこと。（埼玉 JVPF／平松伴子）

短信

法政大インター ンシップ実施 ～村山日本語 学校で

9月1日～12日、村山日本語学校にて法政大学キャリアデザイン学部のキャリア体験学習の一環として学生のインターンシップを受け入れました。

派遣された3名の学生は、初日よりそれぞれベトナム教員のアシスタントとして教室で受講生の指導にあたりました。授業では日本の大学生の日常生活に即した会話を紹介したり、また創作のカルタなどを使ってより実践的な会話を伝える授業をしました。

受講生も日本人の話す日本語にじかに触れることができ、日本語学習への意欲がさらに掻き立てられる機会となったようです。休日にはベトナム人教員にホーチミン市内を案内してもらったりと、学生たちも通常の旅行では体験できない一味違ったホーチミンを感じることができました。

このように双方にとって貴重な体験となったインターンシップでした。このインターンシップは今後も継続的に実施する方向で検討を続けていきます。（JVPF 理事/御園生純）

村山学校へ助成寄付金～ 協和化学工業株式会社より

昨年（2015年10月）、協和化学工業株式会社（本社：香川・坂出市、代表取締役社長：松島慶三）様より三年目となる70万円の援助金を受けました。紙上をお借りし、協和化学工業株式会社様及び代表取締役社長・松島慶三様に対しJVPFとして御礼申し上げます。

この助成寄付金は平成25年から頂き今回で3年目となり、学校経営の基盤となっている教室、事務室借り上げ費用などに充当されています、

村山日本語学校は、これによって、

収支バランス健全化を図るとともに、通常の日本語学校には見られない「少年少女クラブ・日本語教室」のボランティア

松島慶三/代表取締役社長

期大学でのJICA委託事業など活動を広げてきております。（事務局）

枯葉剤爆弾被害者追跡 DVD『トアとトゥオン』、社会 新報で紹介さる

各、宣伝媒体にお願いしていましたが、社会新報4868号（2016年1月20日付）紙上で紹介して頂きました。

なお、同号には「ベトナム戦争の『現在』——戦後40年と米越の新しい視点」（立教大学アメリカ研究所主催）というシンポジウムの模様も掲載されています。

JVPF 東京、活動再開へ

JVPF 東京支部は昨年の10月28日、活動再開のための会議を行いました。最近、有名無実となっていました支部活動について、昨今、ベトナムとの往来拡大に伴いベトナムの首都ハノイからの要人の訪日も増え東京として対応しなければならない諸行事が増えていること、また在東京のJVPF会員の東京レベルでの横のつながりがこれまで弱かったこと、2～3年毎に開催される枯葉剤爆弾被害者支援チャリティーコンサートの際の要望にこたえていくこと等の事情により、活動再開が迫っていたことによります。

再開会議では、関係者の無理のない「ゆるやかな連絡テーブル」のような性格として世話人会を設置・運営していくこと、役員として世話人会共同代表を石毛茂・東京都議会議員、山口菊子・豊島区議会議員に、事務局長を鹿倉泰祐氏（前JVPF東京支部事務局

長）にお願いすること等確認。

早速、テトを祝う懇親会を来る2月17日に計画。ベトナム料理に舌つみうちながら、在東京ベトナム大使館のソン公使参事官の「昨今の日越関係について」のご報告を受けます。（事務局）

掲示板

これまで（別途掲載除く）

- 枯葉剤被害者追跡記録DVD・第3版「トアとトゥオン」が構想から2年を経て完成し昨年9月頒布開始。2003年の「歪められた遺伝子」、2008年「それでも私は生きてゆく」に続くもの。
- 埼玉JVPFは昨年7月28日から中部クアンナムを訪問。（団長：府川 弥寿夫、参加者6人）。今回も、継続しているクアンナム省での枯葉剤被害者家屋建設支援のため基金を贈呈。
- 来日中のベトナム友好委員会 VAN 事務局長との懇談が昨年8月13日おこなわれ、鎌田副理事長が応接。
- 昨年9月1日、ベトナム共和国建国70周年記念宴会が東京で開催。現在のベトナムと日本の関係を反映してか、反ファシズム戦争勝利の意味合いの薄い内容。鎌田副理事長が参加。
- グエン・フー・チョン・ベトナム共産党中央執行委員会書記長の訪日に合わせ、昨年9月17日、帝国ホテルにおいて、「アジアの平和と繁栄を目指して～越日関係の発展ビジョン」をテーマとして講演会。村山会長の代理で松浦正美副会長が参加。
- 昨年10月初旬、ハノイ市友好委員会来日にあたりJVPFは招待状を。10月8日、JVPF東京の関係者が会談。
- 昨年11月1日、「ヒロシマ被爆70年、ベトナム枯葉剤支援チャリティーコンサート」が、広島HVPF、ユネスコ協会などの実行委員会主催で開催され、来日中の国立ポンセン歌舞団グループの3人の演奏家が参加。
- ベトナム共産党12回大会（2016年1月20日開幕）へ祝辞。

これから

- 第九回総会日程
2016年5月28日（土）14時～16時 於：東京（会場は後日案内）
※総会の為の17回理事会2016年5月28日（土）12時30分から14時、場所は総会と同所
- 2016ベトナムアンサンブル準備開始
- ハザン省少数民族中学校支援の具体化
- JVPF2016冬訪問団（12月予定）